

## 2020 年度の活動計画

### <総務>

- ・ 毎月 1 回幹事会を開催し、議事録を会員に配信する。
- ・ 幹事会の協力を得て、ニューズレターの年 8 回程度の発行を目指す。「自論公論」「旅の千夜一夜物語」「イベントの案内・報告」などの他、会員相互の情報交換や近況報告を兼ねて、より多くの会員に投稿を呼びかける。
- ・ コロナウィルスの終息を前提に、新年会に代わって総会後に懇親会を行う。8 月に暑気払いを兼ねたイベントを開催して、会員間の親睦を図る。
- ・ 懇談会でのパンフレット配布などにより、会員の勧誘に力を入れる。(山下)

### <広報>

- ・ 定期的に HP を更新し、年に 2 回 SRID ジャーナルを発行する。
- ・ Facebook など各種メディアにより SRID 活動の全体的プロモーションを行う。
- ・ SRID のパンフレット・案内書の印刷、幹事の名刺作成などを行う。(山岡)

### <懇談会>

- ・ SRID 非会員も参加できる公開イベント。国際開発のベテランのみならず、国際開発に興味のある学生や、すでに国際開発分野で働いていてさらなるステップアップを目指す若い世代などの幅広い参加者を対象に、国際開発に関する時宜を得たテーマについてその分野のエキスパートに講演を頂く。そして、講演後に十分な質疑応答の時間を設けることで講演者も含めた全参加者が共に考える機会とする。
- ・ 懇談会のテーマと回数は登壇可能な講演者に合わせてフレキシブルに対応するが、国連関連と世界銀行などの国際開発金融機関関連を各 1 回、その他国際開発関連を 2 回、合計 4 回以上の開催を目指す。
- ・ 懇談会とその後のネットワーク懇親会を通じて、キャリア開発事業を含めた SRID の活動に対する非会員参加者の認知度を高め、キャリア開発事業への申込者増や SRID 新規会員増に繋げる。
- ・ 懇談会の成功は魅力ある登壇者探しがキーであり、会員の皆様には、登壇の自薦や登壇可能な知り合いの方の紹介をお願いしたい。(小林<sub>文</sub>)

### <フォーラム>

会員相互の親睦と意見交換の場として発展させることを目的として、フォーラムを今年度も実施していきたい。昨年度は、スカイプによるフォーラム参加が実現し、より広く会員の参加を得ることが出来たが今年度はさらにこれを拡充できないか検討していきたい。2020 年度のフォーラムは、開催時期についてはコロナウィルスへの対応状況を踏まえつつ慎重に検討したい。テーマとして、例えば、アフリカへの協力の在り方、開かれたアジア太平

洋構想、気候変動対策、防災・リスク管理など、会員の関心を踏まえて設定していきたい。  
(神田)

#### <SRID ジャーナル>

- ・ 2020 年度は藤村建夫編集委員長以下、浅沼信爾、高橋一生、仲浩史、福田幸正、湊直信、山岡和純の 7 名で企画・編集を担当、また中島千秋会員の編集協力を得て、7 月に第 19 号、1 月に第 20 号を発行する予定である。特集は編集委員会で決定するが、できるだけ国際開発の最前線のトピックを選びたい。20 号は発刊 10 周年の記念号になるので、何らかの特集を考えたい。読者を増やすために、大学院生のゼミや学生団体のグループ活動を紹介することも考えたい。
- ・ 2020 年度は新型コロナウイルスの例にみられるような、グローバルなインパクトを与える課題と、その結果として生じる国際社会の変容を分析しながら、国際開発協力分野の重要課題を取り上げていきたい。ターゲットグループとしては、国際開発を学習している大学院生、研究者、実務者などとする。読者からの投稿は 2019 年度に 1 件あったが、内容が不適切と判断され掲載されなかった。今後はトピックに見合う読者を選んで投稿を呼びかけていきたい。(藤村)

#### <キャリア開発事業>

- ・ 議案 3 で提案した改編案にそって事業の見直しを行う。具体的には、SRID キャリア開発塾の活動として以下の 4 つの活動を実施する。とりわけ、プロフェッショナル研修コースと個人カウンセリングに事業の重点を置いて、他の事業との連携を強化する。
  - ① 出張講座
  - ② プロフェッショナル能力向上研修
  - ③ キャリア開発カウンセリング
  - ④ 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携
- ・ プロフェッショナル研修コースは国際開発ジャーナル社と協力し、年度後半の土日の 2 日間で行う。2020 年度は土曜に世銀コース、日曜に国連機関コースを実施するが、SRID 会員の専門知識とスキルを考慮して、翌年度以降、徐々に研修コースを改訂または拡充していく。
- ・ 土日ともに午前と午後に分けて 90 分の講義・実習を 4 コマずつ、計 8 コマ実施する。講師に謝金を支払うことを考慮して研修を有料とし、事業が独立採算で維持できるよう努力する。
- ・ 講師リストを見直し、積極的に事業に協力できる会員を登録する。SRID ジャーナル、SRID ニュースレターへの寄稿、SRID 懇談会との連携（講師による講演）を図る。
- ・ 過去の助成団体を含む SRID の活動に関心を持つ学生団体を選んで、活動に参加してもらおう。また、学生団体等が必要としている研修やセミナー等に講師を派遣して協力する。
- ・ 国連フォーラム、SNS 等を通じて、キャリア開発事業の対外的な認知度を一層高める

よう努力する。

- ・ 2020 年度はこれまでキャリア開発事業の活動助成金を支給した UYIC、MIS、UNION などの学生団体との連携を強化する。
- ・ 2020 年度は小久保和代委員長以下、神田道男、小林文彦、佐藤桂子、藤村建夫、和気邦夫の 6 名が運営委員を担当する。原則として四半期に一度運営委員会を開催し、実施の進捗状況を確認して幹事会に報告する。また、必要に応じて協議し、問題解決を行う。  
(小久保)

#### <他団体との連携推進>

- ・ 評価学会、アフリカ協会など、他の学会や専門家のネットワーク、組織とも、共通の関心を持てる活動については情報共有を積極的に行い、連携を模索していく。(神田)

#### <サロン・エカポール>

- ・ 2020 年度も国際開発のフロンティアで活躍されているプロフェッショナルを招き、開発問題のホットイシューを中心に、最前線の新鮮な話題を提供してもらうことにしている。ホストとゲストの都合で定期的を開催することは難しいが、年に 2~3 回開催したい。
- ・ また、2018 年度から始めた「趣味のサロン」では話題をトレッキング、釣りなど趣味の分野に広げ、他の関連するネットワークの若者との合同サロンも検討する。(藤村)